

# 会津縦貫北道路遺跡発掘調査報告 7

たか どう た 遺 跡 (2次)  
高 堂 太 遺 蹤 (2次)





図1 高堂太遺跡調査区全景（西上空から）



図2 高堂太遺跡南区検出遺構（北上空から）





口絵 3 出土遺物

a 地頭道情 b 提子  
d 茶内出土物 (7~8枚目) c 染付小皿  
e 提子内側 f 泥椀



## 序 文

文化財は、それぞれの地域の歴史に根ざした文化遺産であると同時に、わが国の歴史や文化等の正しい理解と、将来の文化の向上発展の基礎をなすものであります。

喜多方市と会津若松市を結ぶ延長13.1kmの地域高規格道路である会津縦貫北道路が、平成8年度に都市計画道路として決定され、平成9年度から建設省(現国土交通省)直轄事業として建設工事が進められています。この計画路線にも先人が残した貴重な文化遺産が埋蔵されており、福島県教育委員会は、周知の埋蔵文化財包蔵地を含め、数多くの遺跡等の所在を確認してきました。このため、福島県教育委員会では、国土交通省東北地方整備局郡山国道事務所と埋蔵文化財保護のため協議を重ね、現状での保存が困難なものについては記録として保存することとして、発掘調査を実施してまいりました。

本報告書は、平成18年度に発掘調査を行った、喜多方市に所在する高堂太遺跡（下高額館跡を含む）の調査成果をまとめたものです。

今回の調査では、中世の方形館跡と平安時代の集落跡が確認されました。中世の方形館跡ではその内部構造と変遷が具体的に明らかにされ、特に地鎮祭が行われた跡と考えられる遺構や遺物が発見され、全国的にも貴重な資料を得ることができました。平安時代の集落跡には、周囲を円形の溝跡が巡る掘立柱建物跡が発見されており、北陸地方との関係が考えられる遺構であることが確認できました。

今後、この報告書が、県民の皆様の文化財に対する理解を深めるとともに、地域の歴史を解明するための基礎資料として、さらには生涯学習等の資料として広く活用していただければ幸いに存じます。

最後に、発掘調査の実施にあたり、ご協力いただいた喜多方市教育委員会、国土交通省東北地方整備局郡山国道事務所、財團法人福島県文化振興事業団をはじめとする関係機関及び関係各位に対し、深く感謝の意を表します。

平成19年11月

福島県教育委員会

教育長 野 地 陽 一



## あ い さ つ

財団法人福島県文化振興事業団では、福島県教育委員会からの委託により、福島県内の大規模な開発に伴う埋蔵文化財の調査業務を行っております。会津継貫北道路に関する埋蔵文化財の調査もそのひとつであり、平成13年度より本格的に事業を開始いたしました。

平成18年度は、予定路線上で工事が優先される喜多方市所在の高堂太遺跡の第2次調査を実施いたしました。本報告書は、この成果をまとめたものであります。

高堂太遺跡は喜多方市豊川町の扇状地に立地する遺跡です。第1次調査により中世城館跡を中心とする遺跡であることが判明しています。城館跡は、江戸時代後期に編纂された『新編会津風土記』に記載のある下高額館跡に比定されていました。今回の調査により城館跡が14～17世紀にかけて営まれたことが明らかとなり、その内部の様相も次第に判明してきています。なかでも銅製提子と中国産染付皿が埋納された地鎮遺構は、全国的にも希少な発見例で、各種報道で取り上げられたことは記憶に新しいところです。地元には関連する伝承や各種史料もあり、次年度以降の調査によるさらなる成果と遺跡の歴史的評価が期待されます。この他、平安時代の集落跡や祭祀行為を示唆する井戸跡などが発見され、喜多方市の扇状地に立地する該期の遺跡の姿も垣間みられました。

今後、高堂太遺跡の調査成果を考古学や歴史学など研究の基礎資料として、さらに、地域社会や生涯学習の場で幅広く活用していただければ幸いに存じます。

終わりに、発掘調査当初から報告書刊行に至るまで、御指導・御協力くださいました関係諸機関並びに関係各位に対し、深く感謝申し上げますとともに、埋蔵文化財の保護に対し、今後とも一層の御理解と御協力をいただけますようお願い申し上げます。

平成19年11月

財団法人 福島県文化振興事業団  
理事長 富田 孝志



## 緒 言

1. 本書は、会津縱貫北道路（会津若松～喜多方間）遺跡発掘調査において、平成18年度に実施した喜多方市高堂太遺跡（2次）の発掘調査報告書である。なお、高堂太遺跡の調査区には下高額館跡を含んでいる。

高堂太遺跡：喜多方市農川町高堂太字高里 他 埋蔵文化財番号：208-00140

下高額館跡：喜多方市農川町高堂太字千刈 他 埋蔵文化財番号：208-00099

2. 当遺跡調査事業は、福島県教育委員会が国土交通省の委託を受けて実施し、調査に係る費用は国土交通省が負担した。

3. 福島県教育委員会は、発掘調査を財團法人福島県文化振興事業団に委託して実施した。

4. 財團法人福島県文化振興事業団では、遺跡調査部遺跡調査グループの下記の職員を配して調査にあたった。

文化財主査 香原 祥夫 文化財主査 佐藤 啓

なお、臨時に次の職員の参加・協力を得た。

専門文化財主査 香川 慎一 文化財主査 今野 徹

5. 本書の執筆は、担当職員が分担して行い、各文末に文責を明記した。

6. 本書に使用した地図は、国土交通省国土地理院長の承認を得て、同院発行の2万5千分の1地形図を複製したものである（承認番号 平19東複第131号）。

7. 本書に収録した遺跡の調査記録および出土資料は、福島県教育委員会が保管している。

8. 発掘調査から本報告書を作成するまでに、次の機関および個人の方々から指導・助言・協力をいただいた。（順不同・敬称略）

喜多方市教育委員会・東北芸術工科大学文化財保存修復研究センター・新潟市教育委員会

相田 央・菅野崇之・柴田 徹・高橋 充・坂内三彦・村木志伸・柳内壽彦・吉田 歆

## 用 例

1. 本文中および遺物整理に使用した略記号は次の通りである。

喜多方市…K K	高堂太遺跡…T D T	掘立柱建物跡…S B	溝 跡…S D
土 坑…S K	地鎮遺構…S X	柱穴・小穴…P	グリッド…G
遺構外堆積土…L	遺構内堆積土…ℓ		

2. 本文中および遺構挿図における遺構番号は、当該遺構は正式名称、その他の遺構は記号化した略称で記載する。

3. 本書における遺構実測図の用例は、以下の通りである。

- (1) 方位記号の表記がないものは、全て本書の天を北とする。
  - (2) 遺構番号は基本的に1次調査からの連続番号である。
  - (3) 縮尺率は、各挿図版に示した。
  - (4) 遺構内の傾斜面は  $\overline{\overline{}}\overline{\overline{}}$  で表示したが、相対的に緩傾斜の部分は  $\overline{\overline{\overline{\overline{}}}}$  で表している。  
また、後世の削平や人為的な削平部分は  $\overline{\overline{\overline{\overline{\overline{}}}}}$  の記号で表記した。
  - (5) 挿図中の網点は、柱穴内の柱痕を除き、図版ごとに凡例を示した。
  - (6) 断面図および地形図における標高は海拔標高を示す。
  - (7) 遺構外の自然堆積土はローマ数字、遺構内堆積土は算用数字で表記した。
- 〔例〕 遺構外自然堆積土：L I・L II…、遺構内堆積土：ℓ 1・ℓ 2…
- (8) 柱穴間の柱間は、平面図に示した（ ）に数値を明記している。単位はcmである。

4. 本書における遺物実測図の用例は、以下の通りである。

- (1) 縮尺率は各挿図版に示した。
  - (2) 土器断面は、土師器・陶磁器を白スキ、須恵器はベタ黒とした。土器内面の網点は、内面黒色処理を示す。
  - (3) 遺物番号は挿図版ごととし、文中では下記のように省略している。また、掲載遺物の出土位置・層位は、右下に示している。
- 〔例〕 図28の10番の遺物…図28-10
- (4) 遺物の計測値については、推定値を（ ）、残存値を〔 〕で示した。

5. 本書における遺物写真の中で個々に付した番号は、挿図番号と一致する。

6. 引用・参考文献は、執筆者の敬称を省略した。

## 目 次

第1章 遺跡の環境と調査経過	
第1節 調査に至る経緯	1
第2節 調査経過	2
第3節 遺跡の位置と自然環境	3
第4節 周辺の遺跡と歴史的環境	3
第5節 調査方法	6
第2章 遺構と遺物	
第1節 遺跡の概要と基本土層	9
遺構と遺物の概要 (9)    基本土層 (9)	
第2節 掘立柱建物跡	11
1号建物跡 (11)    8号建物跡 (13)    9号建物跡 (15)    10号建物跡 (17)	
11号建物跡 (18)    12号建物跡 (20)    13号建物跡 (21)    14号建物跡 (24)	
15号建物跡 (26)    16号建物跡 (27)    17号建物跡 (28)    18号建物跡 (29)	
19号建物跡 (31)    20号建物跡 (33)    21号建物跡 (34)    22号建物跡 (36)	
23号建物跡 (36)    24号建物跡 (37)    25号建物跡 (38)    26号建物跡 (40)	
27号建物跡 (41)    28号建物跡 · 37号溝跡 (41)    29号建物跡 (43)	
30号建物跡 · 36号溝跡 (44)    31号建物跡 (46)	
第3節 溝 跡	47
7 · 18号溝跡 (47)    8号溝跡 (53)    9号溝跡 (54)    10号溝跡 (54)	
11号溝跡 (55)    12 · 13 · 25 · 26号溝跡 (59)    14 · 17 · 24 · 38 · 39号溝跡 (59)	
15号溝跡 (63)    16号溝跡 (65)    19 · 20号溝跡 (66)	
21 ~ 23 · 27 · 28号溝跡 (71)    29 · 30号溝跡 (71)    31号溝跡 (73)    32 ~ 35号溝跡 (74)	
第4節 土 坑	76
A群土坑 (76)    B群土坑 (80)    C群土坑 (82)    D群土坑 (82)	
土坑出土の遺物 (82)	
第5節 地鎮遺構	100
1号地鎮遺構 (100)	
第6節 小穴群	105
第7節 遺構外出土遺物	110

## 第3章 考 察

第1節 平安時代の土師器	113
第2節 平安時代の高堂太遺跡	115
北区の集落について (116) 井戸跡について (116) 墨書き土器について (117)	
第3節 中世の出土遺物	118
かわらけ・国産陶磁器・貿易陶磁器 (118) 石臼について (121)	
第4節 下高額館跡の時期区分と遺構変遷	123
時期区分 (123) 各期の内容 (124)	
第5節 地鎮遺構について	126
第6節 方形館の構造と麻生館遺跡との比較	128
下高額館跡の構造 (128) 麻生館遺跡との比較 (129)	
第7節 文献史料と発掘調査成果の整合性	131
文献史料にあらわれた下高額館跡 (131) 歴史的背景 (132)	

## 挿図・表・写真図版目次

### [挿 図]

図1 会津継貫北道路位置図	1	図21 18号建物跡	30
図2 周辺の遺跡位置図・一覧表	5	図22 19号建物跡	32
図3 調査範囲とグリッド配置図	7	図23 20号建物跡	34
図4 北区遺構配置図	8	図24 21号建物跡	35
図5 基本土層	10	図25 22号建物跡	36
図6 1号建物跡（1）	12	図26 23号建物跡	37
図7 1号建物跡（2）	13	図27 24号建物跡	38
図8 8号建物跡	14	図28 25号建物跡	39
図9 建物跡出土遺物	15	図29 26号建物跡	40
図10 9号建物跡	16	図30 27号建物跡	41
図11 10号建物跡	17	図31 28号建物跡・37号溝跡	42
図12 11号建物跡	19	図32 29号建物跡	44
図13 12号建物跡	21	図33 30号建物跡・36号溝跡	45
図14 13号建物跡（1）	22	図34 31号建物跡	46
図15 13号建物跡（2）	23	図35 溝跡（1）	48
図16 14号建物跡（1）	25	図36 溝跡出土遺物（1）	50
図17 14号建物跡（2）	26	図37 溝跡出土遺物（2）	51
図18 15号建物跡	27	図38 溝跡出土遺物（3）	52
図19 16号建物跡	28	図39 溝跡出土遺物（4）	56
図20 17号建物跡	29	図40 溝跡（2）	57

図41	溝跡（3）	58
図42	溝跡出土遺物（5）	60
図43	溝跡出土遺物（6）	61
図44	溝跡（4）	62
図45	溝跡（5）	64
図46	溝跡（6）	65
図47	溝跡（7）	67
図48	溝跡出土遺物（7）	68
図49	溝跡出土遺物（8）	69
図50	溝跡出土遺物（9）	70
図51	溝跡（8）	72
図52	溝跡（9）	73
図53	溝跡（10）	75
図54	土坑分布図	76
図55	土坑（1） 7・10・11・14・15・17・24号土坑	84
図56	土坑（2） 8・9・12・13号土坑	85
図57	土坑出土遺物（1）	86
図58	土坑出土遺物（2）	87
図59	土坑（3）16・18～23号土坑	88
図60	土坑（4）25～32号土坑	89
図61	土坑（5）33～36号土坑	90
図62	土坑（6）37～44号土坑	91
図63	土坑出土遺物（3）	93
図64	土坑（7） 45～49・51～54・59号土坑	94
図65	土坑（8）50・55～57号土坑	95
図66	土坑出土遺物（4）	96
図67	土坑（9） 58・60～63・65・66号土坑	97
図68	土坑出土遺物（5）	98
図69	土坑（10）64・67～71号土坑	99
図70	1号地鎮遺構	101
図71	1号地鎮遺構出土遺物（1）	102
図72	1号地鎮遺構出土遺物（2）	103
図73	1号地鎮遺構出土遺物（3）	104
図74	小穴群（1）	106
図75	小穴群（2）	107
図76	小穴群（3）	108
図77	小穴群（4）	109
図78	小穴群出土遺物	110
図79	遺構外出土遺物（1）	111
図80	遺構外出土遺物（2）	112
図81	土師器杯の計測値	114
図82	かわらけ・国産陶磁器・ 貿易陶磁器編年図	119
図83	石臼の名称と文化圏	122
図84	方形城館跡の変遷	125
図85	地鎮遺構の類例	127
図86	池跡の類例	128
図87	染付皿の類例分布	129
図88	麻生館遺跡・下高額館跡比較	130
図89	周辺の板碑	132
図90	平地城館跡の分布（1）	133
図91	平地城館跡の分布（2）	134

[表]

表1	土坑計測一覧	77
----	--------	----

[写真図版]

口絵1	高堂太遺跡調査区全景	139
口絵2	高堂太遺跡南区検出遺構	139
口絵3	出土遺物	140
1	南区全景	139
2	南区全景	139
3	南区東半部	140
4	南区南半部	141
5	11号建物跡周辺	141
6	南区北東部	142
7	24号建物跡周辺	142
8	50号土坑周辺	142
9	1号建物跡完掘	143
10	8号建物跡完掘	143
11	9号建物跡完掘	144
12	10号建物跡完掘	144
13	11号建物跡完掘	145
14	12号建物跡完掘	145
15	13号建物跡完掘	146
16	14号建物跡完掘	146
17	15号建物跡完掘	147

18	16号建物跡完掘	147	61	50号土坑上面	169
19	17号建物跡完掘	148	62	50号土坑	169
20	18号建物跡完掘	148	63	51~54・59号土坑	170
21	19号建物跡完掘	149	64	55~58号土坑	170
22	20号建物跡完掘	149	65	60~63号土坑	171
23	21号建物跡完掘	150	66	64~67号土坑・29号溝跡	171
24	22号建物跡完掘	150	67	68~70号土坑	172
25	23号建物跡完掘	151	68	1号地鎮遺構斷剖	172
26	25号建物跡完掘	151	69	1号地鎮遺構檢出狀況	173
27	26号建物跡完掘	152	70	1号地鎮遺構斷剖	173
28	27号建物跡完掘	152	71	溝跡出土土器（1）	174
29	28号建物跡・37号溝跡完掘	153	72	溝跡出土土器（2）	175
30	30号建物跡・36号溝跡完掘	153	73	陶磁器	176
31	30号建物跡完掘	154	74	溝跡・土坑出土土器（1）	177
32	31号建物跡完掘	154	75	溝跡・土坑・遺構外出土土器	178
33	7・8・10号溝跡	155	76	土坑出土土器	179
34	9号溝跡	155	77	溝跡・土坑出土土器（2）	180
35	10号溝跡	156	78	溝跡・土坑・ 地鎮遺構出土遺物（1）	181
36	11号溝跡	156	79	地鎮遺構出土遺物（1）	182
37	14・15号溝跡	157	80	地鎮遺構出土遺物（2）	183
38	15・16号溝跡	157	81	地鎮遺構出土遺物（3）	184
39	7・18号溝跡完掘	158	82	地鎮遺構出土遺物（4）	185
40	7・18号溝跡	158	83	溝跡・土坑・ 地鎮遺構出土遺物（2）	186
41	19・20・24号溝跡	159	84	建物跡・溝跡出土石製品	187
42	29号溝跡完掘	159	85	石製品・鐵製品	188
43	29・30号溝跡	160	86	古錢・木製品・燒壁	189
44	30号溝跡完掘	160	87	木製品・金屬製品	190
45	31・33号溝跡	161			
46	34・35号溝跡	161			
47	1・13号建物跡	162			
48	20・23号建物跡・小穴	162			
49	8・9号土坑	163			
50	7・10~13号土坑	163			
51	14~17号土坑	164			
52	18~20号土坑	164			
53	21~24号土坑	165			
54	25~27号土坑	165			
55	28~32号土坑	166			
56	33~35号土坑	166			
57	36~38号土坑	167			
58	39~42号土坑	167			
59	42~45号土坑	168			
60	46~50号土坑	168			